

第3次宗像市総合計画 ※現在策定中

【都市像】 『心地よい生活空間の中で、多世代が安心して住み続けられるまちづくり』

【都市の目指す姿】

- 都市アセットの柔軟な利活用や地域公共交通の再構築により、誰もが快適に暮らせるまちづくりを推進します。
- インフラストックを集約・再編し、地域特性に応じて効果的に利活用しながら、安全安心で持続可能なまちづくりを推進します。

次期都市計画マスタープランにおいては、以下の視点や都市像を基に都市づくりの目標や基本方針を検討します

次期都市計画マスタープラン改定の視点（案）

- コンパクト・プラス・ネットワークの深化と拠点性の向上
- 地域特性を活かした、戦略的な土地利用の推進による市の活力創造
- 既存ストックを最大限に活かした、多様な主体との共創による持続可能な都市の実現
- 激甚化・頻発化する自然災害、地球温暖化への対応
- 多彩な自然・歴史文化資源を活かした観光交流拠点の形成

「宗像版集約型都市構造の充実」の考え方（案）（現行計画：宗像版集約型都市構造）

- (1) 多極連携型都市構造の形成は緩やかに進める
- (2) 駅周辺は拠点機能の向上に資する高次都市機能の集約化を目指す
- (3) 各コミュニティ内は生活に必要な施設の維持・充実を目指す
- (4) 地域特性に応じた交通ネットワークの形成による連携強化、各種機能の相互補完を図る
- (5) 特色ある公共公益施設を地域の個性・魅力づくりに活用する

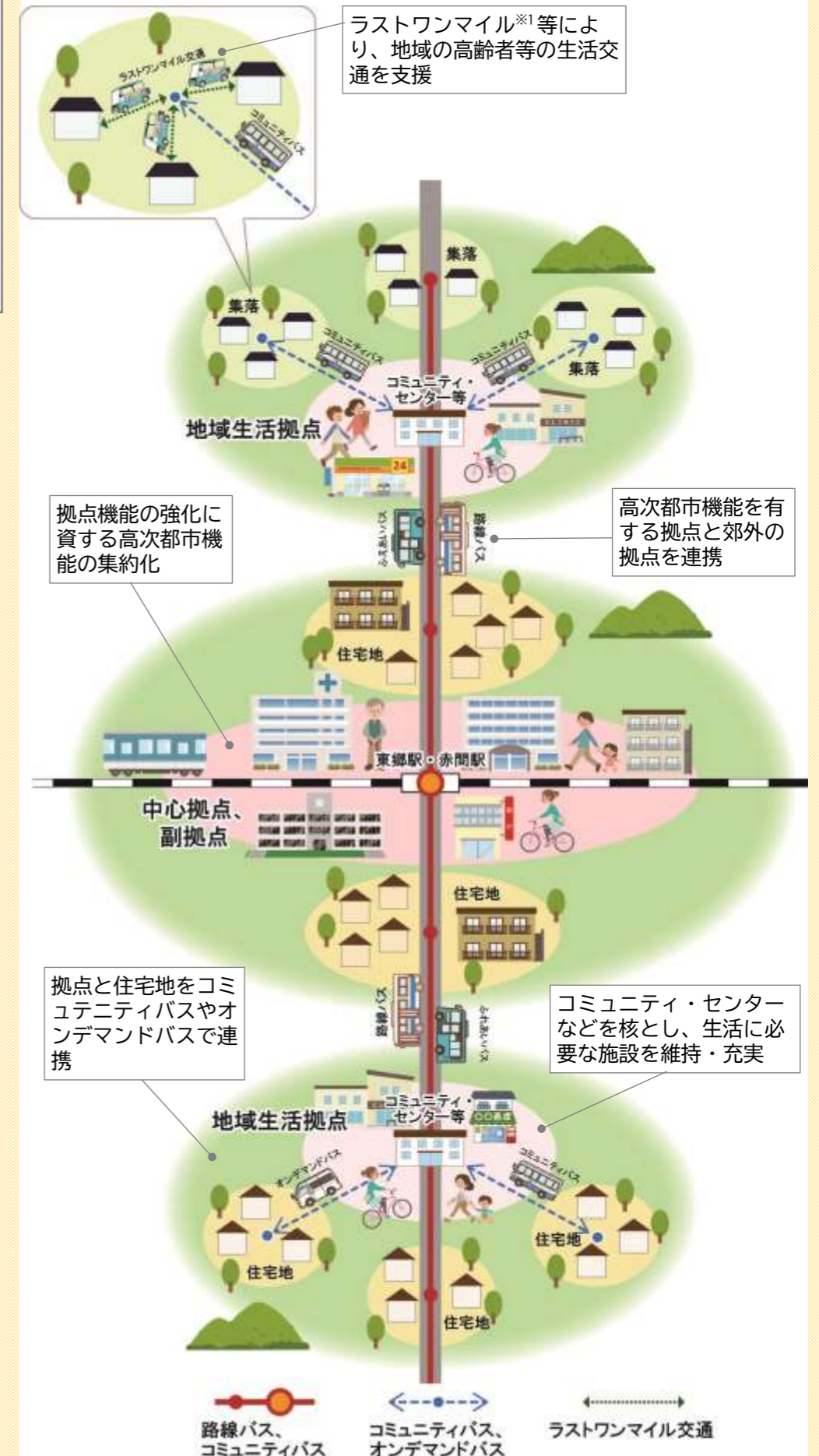
【目指すべき都市像】

（現行計画）『コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市』

（次期計画案）『地域の個性を磨き、それらが有機的に機能する持続可能な都市』

- 〈1〉誰もが住み続けられる人に快適で安全・安心な都市
- 〈2〉活発な交流・活動を生み出し、人々の暮らしや文化を育む都市
- 〈3〉多彩な自然・歴史資源と共生する都市
- 〈4〉観光拠点を磨き上げ、交流ネットワークを育む都市
- 〈5〉多様な主体との共創により新たな価値やイノベーションを創出する都市

〈 宗像版多極連携型都市構造のイメージ 〉



※1：最寄りの鉄道駅やバス停から、最終目的地である自宅までの区間